

“ふじのくに”士民協働事業レビュー結果

(文化・観光部)

事業番号	24	事業名	私立学校農業体験（アグリチャレンジ）事業費助成
------	----	-----	-------------------------

1 基本情報

実施日/班名	9月8日 第3班	時間	14:23~15:24
担当課名	私学振興課	事業費	3,000千円

2 レビューの結果 施策を推進する効果の程度

結果	あまり効果がない	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	0
			一定の効果がある	7
			あまり効果がない	21

3 県民評価者の意見

(1)見直し・改善策

目的指標	
対象範囲	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が農業体験することは大変よいことであると思う。しかし、事業の効果は期待できるものの、現状、参加者が少ないのでは...。今後の展開として、公私の枠を外し、教育委員会と連携した事業はできないのだろうか。また、ある委員の質問にもあったように、農業体験であるならば、農政関係部局で実施すべきではないか。 学校から問い合わせ、依頼があったら対応するのはどうか。公・私同じようにはできないだろうか？ 私立・公立が分離せず、両方を窓口として扱うべきである。 目的は同じであり、公立の農業高校の知識も得るため、私・公の連携も必要である。 公立・私立分けて事業をする必要がない。 私立・公立一緒にやってもいいと思います。 小中学校はいらぬのでは。高等学校で農業科を増やすなど、農業も見つめたものにお金を使った方がいいのでは。他に考えた方が...！ 「(1)徳のある人間性」の「大地に学ぶ農業体験」でまとめた方が効率・効果が上がると判断します。 補助的な教育で、私学・公立を区別するのはどうかと思う。同じ枠組みでできないのか？ 農業体験を拡大する意味で、公立・私立区別なしで実施した方が効果があるのではないか。 農業体験をすることは大きな効果はあると思うが、運用方法に問題あり。公立事業を区別なしで実施した方が、より効果が上がるのでは？ 子どもたちの教育として捉えれば、公立も私立もない。一緒に一本化したら。行政の仕組み・組織に合わせた教育(事業)にする必要は全くない！大きな意味で教育を捉えていただき、柔軟な思考をしていただきたい。 方向性(小柱)(1)のところで作る方がよいのではないか。なぜ公立・私立分けるのか(国の方針なのか)。私学の独自性に任せるにしても、やっていることは同じでしょうから無駄な気がする(担当をまとめたら)。 本件とP234の小柱(1)中の「大地に学ぶ農業体験...」とが内容的に重複している。両者を一本化すれば体系的な取組となり、効率アップが期待できると考える。

対象範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のことだけではないが、仕事柄良く言われるのが、お客さんは誰かをよく問われる。そういうところを気にしながら聞いていたが、はっきり見えてこないところが多分にあったので、そういう部分を見直してほしい。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農業高校・大学の農学部などと連携してできればよいのではないか。 ・高校、中学、小学校とも参加者が非常に少ない。中学、小学校の活動区分は授業となっているが、どうして少ないのか。この間、ほかの子はどうしているのか。体験学習としては、もっと参加する方法を採ってはどうか。今の段階では私立でも参加者が少ないのではないか。（特に農業体験と指定しなくてよい。） ・県下 JA も地域小・中学校へ農業体験を実施している。もっと窓口を広げて実施が必要。 ・農業に限らず、豊かな人間形成に役立つものは他にある。 ・農業以外の産業でも、環境・食育や社会貢献・社会的規範などを学ぶことは十分可能である。是非いろいろな分野に枠を広げて、効果的な費用の使い方ができるよう考えていただきたい。 ・参加校数も枠一杯までは達していないようなので（人気がない？）そこも運用・制度等の見直しで改善できればと思います。 ・1プロジェクトあたりの参加人数が少ないが、学校の枠組みを超えて参加人数を増やす方がよいように思えるが、直結する目的からは遠ざかってしまうのか…。 ・選択が増えるということでも多少魅力が増すのかもしれないが（始まったばかりで試みの部分があるが）例示されているものの規模の小ささから見ると、それほど魅力が増していないのではないかと思うので、最少規模を定めたり、範囲を広げたり、定額ではなく規模に応じた助成にすべきではないかと思う。 ・草取りから1年を通して農業を見た方がいいのでは。 ・予算には重点投資（項目）重点実施のメリハリが必要。 ・なぜ農業体験だけなのか？静岡県であれば、水産業も特産だと思うのですが？ ・実施場所が校舎と同一敷地外でないと対象にならない、というのを敷地内でも対象にできるようにしたらどうか？ ・“農業”という限定をやめたらどうか？ ・農業体験を行うことによる人間形成の推進の効果は0ではない。しかし、農業に限定するのではなく、主要産業いくつかの選択肢があってよい。 ・何で農業なのか？思いつきのような感じがする。テーマをもっと幅広くしたらどうか？ ・私立学校に求められる魅力とは農業ではない。だからこそ、中学（高校受験を控えている）の参加率が低いのに現れている。しかし、農業体験そのものは大変すばらしいので、私学でもあっていいと思う。経費は現在の額では低すぎると思う。農業はもっとお金がかかる（バス代とか） ・事例のような農業体験は、他にもいろいろ受ける機会があるので、補助金を出して行ったら、もっと別のやり方ができないか。県で行う事業ならではの企画など。（農業以外のものも含め。） ・人格として農業に興味を持たせるためだけなのか。委員の言われるように「何で農業？」の答えが無い。もっと本格的にやるのなら、予算を出して深く関わる必要があるのでは…。 ・農業体験を通して全人教育の一つの手段として有効であると思いますが、あくまでも種まきから施肥、草取り、収穫という一貫した体験（完結サイクル）をさせてほしいものです。 ・農業体験を助成事業としてやることで、学校の任意の選択に任せているのは、教育効果を生まない。むしろ義務教育の中の教科または部活動として、自然の巡り合わせ、生きる糧、基本的な労働として体験を義務付けるべきではないか。育てる苦労、大切な命をいただく行為、感謝、そして働かざるもの食うべからずの原則などへ。 ・私学振興として本気で農業を取り上げるのであれば、“6次産業”などと言ってるだけでなく、「実践教育学科」として農業大学を目指せる教育助成、などとなるのではないか。 ・補助金の成立があまりはっきり分からないので、まだプランとして練れていないのかもしれない。自由な采配で私学側に任せるのなら、私学側のプランを出させて補助金を落とすとしていくところを決めていくような方法もあるのではないのでしょうか。

事業内容

- ・私立のよいところは、制限が少なく学生・学風に添うようプログラムを立てることができるので、助成金を出してくださるのありがたい。その助成金を使い私学側に任せて下さるのありがたい。ただ、このような助成金の使い道が農業でなければならないのか？「有徳の人づくり」との関係が何とも弱い。つまり、という誘導をしてはいけない。私学の経験が学生にとって有形・無形の財産（自分作り）となってもらいたい。そのためには、事業内容（手段方法）を更に検討してみてください。
- ・私立学校の教育条件の継続・向上について、アグリチャレンジで満足しないほしい。公立にはない独立性や個性を大いに認め、助成をしてほしい。

(2)その他の意見

- ・子どもが私立中学に行っているが、このような事業があるとは知らなかった。
- ・まだ期間が経っていないので、評価が難しい。
- ・成果が出ているかどうかを話し合うべきで、事業発案のことでこんなに時間を使うのか。アンケート以外の評価はないだろうか？
- ・全体的に言えることだが、事業を行っていく上でのプロセスについて目標を持っているのでしょうか？実施結果に対するレビューは大体のもので行うと思いますが、プロセス目標についてレビューすることで、いろいろな対応・変化が可能になるのではないかと思います。
- ・ここまで助成がいるのかとも思った。
- ・対象が私立学校のため、予算・担当課が異なるというのはおかしい。
- ・実施効果があいまい。
- ・県の縦割行政の結果、生まれた施策と思われる。
- ・アンケートや成果で % という表現があるが、全体のサンプリング数の記載がほしい。
- ・短い時間で事業内容を理解して評価するには、情報が多すぎる。継続事業であるならば
事業内容説明 昨年度の反省 事業継続のための必要性 本年度の施策の目標
素人にも分かるように、サマリーとして簡単に説明してほしい。詳しいデータは参考資料としてまとめてほしい。
- ・耕作放棄地を減らしたいという理由で“農業”としたのなら、耕作放棄地を利用した活動は多いのか？
- ・このような提案をしますが、もしよかったら参加してください、という軽い内容と感じた。参加した生徒はよい体験ができた、との回答が多いにも関わらず、参加する学校が少ないのはなぜか理解できない。
- ・農業体験をやることで私立学校の魅力ある学校づくりになるかは疑問。（公立でもやっているし。）（農業体験して物の大切さ、農業の重要性を勉強することはよいことだと思うが。）
- ・補助金 10 万円くらいではやってられないよ！というような学校が多いのか。（学校として手間がかかり、わずらわしいと思われる。）
- ・金額的に効果が出るのか？
- ・中身を私学に任せたら丸投げではないか？
- ・農業体験の目的（豊かな人間形成）と効果が合致しているのか？なぜ農業なのか？
- ・何でこの事業は文化・観光部で担当されているのですか。教育の部分では私立も同じではないのですか。
- ・私立・公立を必ず分ける、と思込みがあって効率をよくする努力はしていないように感じた。
- ・中途半端な気がした。農業にこだわる理由が分からない。全体的に分かりにくかった。
- ・私学の独自性の中で農業がないから、補助を出してやらせるというのが目的であることを説明しないと理解できない。
- ・「私学の振興」については、日本の今後の少子化の中で「公立」に任せることと「私学」が担う部分とを明確にすべきである。既に大学や専門学校などでも、経営的に成り立たないところが増えている。県として私学教育をどう展望し、どう扱っていくのか？
- ・なぜ私学と公立が別なのか、求めるところは一緒ではないか、そういうところがこれまでよく言われている縦割り行政の弊害が如実に現れているのではないか。あくまで今日は事業実施後のレビューということだが、もう少し前向きに積極的にとらえたとするならば、施策の立案の段階で第三者、外部有識者を入れて立案するのがより効果的なものになるのではないか。